

# 同窓会報

第15号  
昭和56年5月10日  
社団法人  
上田高等学校同窓会  
印刷所  
印刷  
書籍  
信毎

## 校舎大改築工事進捗

### 十月大体育館完成見込

昭和五十三年学校敷地の北側に東西に長く、三階建ての二十四教室が出現した。この建物の南側に、二階建ての廊下で連結して、管理棟が昨秋完成した。

管理棟は一階に校長室、事務室、保健室、調理室、被服室、二階に普通教室、職員室、図書室、会議室、三階に化学、物理、生物等の特別教室が入った。また、新校舎の西側に部室が二階建てで二十室出、来上り、部活動が活発に行われるようになった。



新設の管理棟

上田高等学校独立八十周年記念事業として取り上げた校門と土堀の改修事業は上田市文化財として指定を受けているので、難事業であった。昭和五十四年十一月十日着工後、一年以上を経過して昨年三月二十五日完成した。堀の浚渫工事は昭和五十五年十二月五日着工し、冬の寒い雪の中の難工事となった。工事は石垣を積み泥土を除去し、本年三月二十五日終了した。堀には澤山の鮒が居て、学校ではこれをプールで飼育し、完成した堀に戻すことにした。そのため今度はプールの清浄に大骨を折った。校門と池の工事費は三百五十万円であった。

### 校門と土堀修理事業 堀の浚渫工事終了

本年二月二十日大体育館建築の地鎮祭が、新津真澄上田高校長、柳澤文秋同窓会長、櫻井慶喜PTA会長生徒代表により行われた。位置は旧物理、化学教室を取り払

った場所、一三八・八平方メートルの巨大な体育館が、四月二十日上棟式を終え、十月完成の見込。なお、自より体育館の東側に格技室、音楽室、食堂の二階建ての建築が始められ、明年三月に竣工する。以上で校舎の全面改築の大部分が終了し、昭和五十七年度の定時制教室の新築工事を残すのみになり、木造の建物はすっかり無くなり、昔の校舎は校門わきに移動した土蔵のみとなった。

## 昭和五十五年度総会 体育館で開催した

昭和五十五年度の同窓会総会は校舎改築により、同窓会館大講堂を学校に貸与したため、校内体育館で五十五年六月八日午後二時より開催した。

当日は昭和五十四年度事業報告と歳入歳出決算と昭和五十五年度事業報告と歳入歳出決算を審議し、続いて、同窓会役員選挙を行った。八十周年記念事業が進行中なので、役員欠員二名の補充を主体に行われた。

当日は世界経済研究会専務理事 諏訪嘉雄氏(第三十六回卒業の一激動する世界情勢と日本経済)の講演が行われた。懇親会は五十四年秋と五十五年春の受賞者の祝賀会をかねて開催された。招待者氏名は次の通りである。(敬称略す)

勲五等瑞宝章新津保(15回)、勲五等双光旭日章関計(17回)、川村憲一(22回)、平尾義雄(22回)、宮下哲之助(24回)、中村徳太郎(26回)、勲三等旭日重光章宮下明義(26回)、勲七等青色桐葉章小池保則(27回)

同窓会の歳入歳出も七百余万元に達するに、同窓会入会費は二百三十万円位しかなく、維持費費の収入で辛じて息をついている。出来るだけ維持費の御支払をお願いするが、東洋信託債券の御購入でも結構です。東洋信託は五年間据置き、利子の中から維持費費が支払われ、五年後利子の残金と信託金が御手元に償還されるので、貯金をかねて同窓会の支援が出来

母校の思い出にご愛蔵下さい。

上田高校創立80周年記念映画

# 城跡の母校

しろ あと ぼ こう

■ビデオ・テープ(38分) 1巻 ¥28,000—  
■カセット・テープ(4分) 1巻 ¥1,000— 送料共

ビデオテープはご使用のメーカー名を明記の上、下記まで現金書留でお申込み下さい。  
10日以内に到着するよう御送りいたします。

【申込み先】〒386 上田市常田3-2-5 田中豊雄(36回卒)  
【問い合わせ】TEL0268-22-2250

安全とサービスを保って20年

営業品目 LPG・配管・器具・冷暖房工事・防災器具

## 長野プロパンガス株式会社

本社 上田店 上田市大字国分542番地  
TEL 0268(22)5518(代)

松本支店 松本市美須々7の1番地  
TEL 0263(32)4652(代)

諏訪支店 諏訪市湖南字大曲222  
TEL 02665(2)4353

広丘工場 塩尻市広丘野村  
TEL 02635(2)0672

長野営業所 長野市中越  
TEL 0262(43)5307

# 独立八十周年記念祝典

## 上田市民会館で挙

前日大雨であったが、昭和五十五年十月十二日(日曜)は晴天になり、上田公園内の市民会館には早朝から参加者が集合した。来賓三十名、招待者七十二名、同窓会員六百十名、旧職員六十六名、現在の職員七十五名、PTA役員三十一名、在校生一千八百八十三名、合計二千六百七十七名が参集したので、会館は立錫の余地も無くなった。

九時五十分より田中豊雄(第36期卒)氏の十六耗映画「城跡の母校」が上映され、全面改装される前の校舎とクラブ活動等が写し出され、旧校舎が一瞬にして崩れる場面は同窓会員に深い感銘をあたえた。

続いて十時三十分、上田高校ブラスバンド班の演奏の中に、静かに幕が上がり、舞台の正面に、国旗その左側に「中卒」、右側に「高校」の校章が金色にくっきりと写し出され、閉会となった。会の進行は八十周年記念委員会総務委員長水野春海(第42期)氏によって行われ、菅原正巳式典委員長(第24期)が閉会の言葉を述べ、参会者全員が起立して校歌を斉唱し、会場が一つの雰囲気に向け込み、鈴木俊副委員長(第27期)が記念事業の基本計画と、実行委員会の六部門、二百十名の活動の状況を報告し、柳澤理一郎募金委員長(第33期)が記念事業費の目標一億円

の突破が確実になったと報告された。続いて柳澤文秋祝典実行委員長(第27期)が「本校は明治八年九月県下最初の中学、第十六中学予科学校として創立され一〇五年になるが、幾多の変遷を経て、明治三十三年四月完全な五年制中学として、上田中学校が独立し、今年はその八十周年を迎え、この間は傘寿の八十周年を迎え、この二万二千余名の生徒が古城の門をくぐって卒業し、全国的に活躍していることは誠に御慶に耐えない」と挨拶し、新津上田高等学校校長が「星霜八十年自主独立の建学の精神が脈々と息吹きが変わることなく、教育愛、子弟愛、母校愛によって結ばれた関係各位から、常日頃本校に寄せられる暖い御芳情に、心から感謝している」と述べ、生徒代表合井隆志が元氣よく挨拶し、続いて来賓祝辞に移った。

衆議員議員井出一太郎氏・羽田孜氏、県教育委員長真鍋信喜氏、上田市長石井泉氏の順に夫れ夫れ含著のある祝辞が述べられ、そのあと壇上に並んだ来賓の紹介がなされ、祝電披露が行われた。

次に遠藤恭介校史編纂委員長(第20期)が講師を紹介して記念講演に移行した。

講師 文学博士倉澤剛先生

倉沢先生は第20期卒業生で、今回

上田高等学校校史草創編の執筆者と時間制限のため三十分間の短時間の講演をなされた。明治八年、上田藩居館跡を第十六中学として県から無代価で払い下げて得て、この学校の歴史の第一歩が発足し、この画期的な出来事から始まる上田高校のあけぼの時代の歩みのお話は参会者に深い感銘を与え、まさに今日の祝典の圧巻ともいえる講演になった。

講演後、細川雨村氏(第41期)が旧師笠井南村先生の記念祝典に寄せられた祝詞を紹介した。

望樽俯臨千曲川  
城溝粉壁旧依然  
濟々土自此門出  
木構任來八十年  
奇蹟古城門以為上田  
高校八十周年記念祝詞

の吟詠は万場の拍手を受けた。続いて山極真平氏(第32期)の作詞、上田高校音楽担当永井彰氏作曲の「八十周年記念讃歌」

鳥帽子嶺に 耀ふ光  
東雲の空の まほらに  
展りゆく われらの学園  
語れ 世記に近づく歴史の跡を  
今日の記念に

上田 上田高校 節義のわれら  
(以下略)  
を生徒全員で斉唱した。終って、参会者全員が総起立して、ブラスバンドの伴奏によって、昔懐かしい寮歌「信濃の空に東風渡り……」

寮歌 No.2 「松尾城頭青風……」  
応援歌 No.3 「伝統の花よりうらんと……」  
No.5 「真田勇士の血を継ぎし……」と会場を揺がす大合唱が続く。「凱歌」夕陽千曲の水の面に……の奇 ちつては式典はク

ライマックスに達し、会場は興奮と感激の掛橋となった。終って、万才の三唱になった。

関東支部長矢島五郎氏(第36期)より、本日参会出来なかった同窓生に思いを馳せようと呼びかけがあった後、上田高校の今後の発展を誓って、高らかに万才の三唱の音頭をとられた。

最後に櫻井慶喜PTA会長(第43期)が謝辞と共に閉会を宣言し

## 各期が八十周年記念に

### 記念品を続々寄贈

卒業各期が学校に記念品を続々寄贈している。

第三十三期卒業生一同が、五十四年七月玄閣正面に「屋外壁掛大時計」を寄贈し、五十五年九月、中沢礼三氏(第32期)が電池式掛時計を会議室に、第五十一期卒業生一同が「優勝盃飾り棚」を玄閣内に寄贈された。この玄閣の正面に大きな大理石の柱を創立八十周年事業実行委員会が寄贈し、来校者の注目の的になっている。

第二十二期生は八十周年記念祝詞の作者笠井南村先生の「祝詞」を書かれた掛け軸を表具し潮川繁雄画伯(第20期)の水彩画「古城の秋景」と共に校長室へ寄贈されました。

八十周年記念事業実行委員会は校門土塀と池の工事と共に旧講堂の前にあつた土倉を三百万円の予算で、校門を入って左側、旧泰安殿のあつた位置の前方に移転し、修理した。この倉の南にプールがあるがこの場所に南庭園を作り、校門を入った右側(体育館の前方)に北庭園を創設し、南と北の庭園を通じて校舎玄閣に通つ計画を樹立した。この造園事業を記念し、造園碑を土蔵の前方に創設した。石碑の文字は次

て、十二時半に祝典が終了した。第29回卒業の某氏は「感激のあまり、涙が出て止まらなかつた。本日の式典は同窓生にとって末長く忘れ得ない感動的なものであつた」と述べられた。

終つて歩いて母校にむき同窓会館と体育館と二カ所に分けて開催された祝宴会場、独立八十周年の祝杯があげられた。

- 校史
- 一八七五年 長野県最初の中学校ここに誕生す。
  - 一九〇〇年 長野県上田中学校独立す。
  - 一九四八年 長野県上田松尾高等学校となり定時制高等学校を併設す。
  - 一九五八年 長野県上田高等学校と改名す。
  - 庭園
    - 一九八〇年 学校独立八十周年を記念し庭園を造成す。裏面には執筆者西川秀栄と刻られている。
    - 北庭園には校門に近く学校位置表示碑が第三十八期生一同によって寄贈されている。正面には北緯 三十六度 二十三分五秒 東経 一三八度 十五分 〇八秒 標高 四四七・〇九メートル 位置 大手町一丁目五三・六三 寄贈年月日 五十四年八月十五日 測定は上田高等学校地質班が五十四年七月二十四日測定である。
    - また北庭園には第四十八期の卒業生が、後輩の彫刻家尾澤正毅氏の少年ブロンズ像「向」を寄贈している。校舎の正面には関東支部が砲金製の校章「砲門」を寄贈。なお五月末、第四十七期の卒業生が校歌碑を寄贈する申し出をしている。

八十周年記念式典

生徒の感想アンケート

この三月、生徒会雑誌「松頼」が発行され、その中に八十周年記念祝典の生徒のアンケート特集が掲載されている。その一部を拾つてみる。

「記録映画「城跡の母校」上演」  
○ナレーターが良かった。  
○運動班は多く紹介、文化班が少なく残念。  
○もっと長くしてほしい。  
○校長の演技力は抜群だった。  
○またいつか見た日がある。  
○記念講演については……  
○僕等の年代ではわからないことが多かった。  
○かなり熱が入っていた。  
○(八十周年記念賛歌について)  
○記念としては素晴らしい企画だ。  
○歌の練習をもっと重ねておけば良かった。  
○式典の日だけしか歌はないのもつたいない。  
○同窓生の方々にどう思いましたか)  
○沢山いてびっくりした。  
○みんなでも応援歌、寮歌など歌つても楽しそうだった。  
○席がたりなくて困っていた様子。○母校を大切にするという点から大変愛校心に富み、上高の誇りをもつておられるのだなあ。  
○みんな僕等の仲間だと思つて、何か熱いものがぐんぐん来る。  
○僕等も後がああなるのだなあ。(校舎の取りこなし)  
○木造校舎は好きだった。寂しい。  
○出来ることを壊して欲くない。  
○自然の摂理に任せて、自然に朽ちるのを待たばよかった。  
○(新しい校旗について)  
○うれしい。○かっこいい。○伝統を守ることで良い。○もうけた同窓生に感謝。



校門の左が南庭園、右が北庭園



# 校史執筆の思い出

倉 沢 剛

柳沢理事長から、校史執筆の苦心談を語れるという注文だが、苦心談を語れるほどの苦心がないので、何とも申訳がない。どうせ書くなら、もっと苦心をして、もう少ししなものを書けばよかったと、つくづく思う。しかし、結局あの程度のもに終わったのは、やはりそれなりの事情があった。まず第一に、柳沢理事長も遠藤委員長も、僕に校史草創編を書いてくれといったのではなく、記念誌にのせるため、上中のあけぼのについて、短かいエッセーを書いてくれということだった。このとき僕の頭にうかんだのは、明治八年十月二十四日付の県達——上田旧城廓所属、建家四百三十坪を、無代償にて第十六中学へ下渡すという県達であった。これは明治八年十月、早くも母校現在の敷地を確保した歴史的事象だから、この経緯を書こうと考えた。またこれによって、上田中学は、明治八年設置の第十六中学に端を発し、今年には創立一〇五年にあたることを立証し、創立七〇年とか、創立八〇年とかいう誤解を正そうと考えた。ところが、それだけでよせばよかったのに、興味にまかせて、その前後の上中物語を書きすすめ、やがて一〇五年の校史を九つの段階に区分し、各段階のおもな事項を略叙するに至って、俄然これは

校史草創編の性格をもつようになった。同時に原稿枚数も五〇〇枚七〇〇枚となった。これでは明らかに同窓会の注文と違い、却って迷惑をかけてはすまぬとためらったが、一方ではまた同窓会が早晩百年史を作るべきだから、この稿本はそのときの一つの材料にしてほしい、という積りで二〇〇

字詰原稿紙八五〇枚を上田へ送った。これはいかにも強引な中途変更だから、その採否はすべて同窓会におまかせした。ところが幸いに同窓会のあたたかい理解を得て、「上中高のあけぼの」というエッセーは、「上田高校校史草創編」として刊行されるに至った。いま読み直して見ると、最初の記述はいささか簡略にすぎ、後の部分はやや冗長に失したのは、そのためである。それなら初めから、同窓会で校史刊行の計画をたててもらい、その草創編の執筆を僕が引きうける、とした方がよかつたと思う。そうすればもっと簡潔よろし

## 上田高校同窓会

## 関東支部の現況報告 (その8)

昭和五十五年四月二十二日、六月二日再度の幹事会を開催し、本会の運営と第九回関東支部大会計画について協議した。出席者五十名、楽しい会合であった。

◎会報二十三号発行と編集会議を五月八日、十五日、二十六日から二十八日にかけて会議と校正を行ない、清水編集委員長(38回)を始め、各委員が努力。

六月二日第九回関東支部大会案内を付しての会報「うえだ」第二十三号が完成し、母校在校生に贈呈すると共に関東支部会員へ発送。

◎第十九回大会と大会委員決定

若く頼母しい今春卒の第七十八

期生を招待し、より楽しく、より盛況にすべく、六月十日、二十四日委員会開催、支部長(31回)矢島大委員長と共に委員一同会議。六月二十七日第九回関東支部大会開催、郷土より柳沢文秋同窓会理事長(27回)を始め理事各位の新津校長他今春卒業した七十八期の担任先生八名、更に在京の長野県高等学校同窓会連合会の各校代表十数氏が出席、三百余名の大会となった。

◎母校創立八十周年式典に参加  
十月十二日秋空晴れた母校の式典に我が関東地区から同窓生幾多参加、青春のいぶきを想い出し、感激した。

きを得たものになったであろう。その他史料の蒐集については、多勢の同窓諸兄のお骨折をいただいたが、なお一段の工夫をすべ

## 第二十七期同級会の記

二十七日の今年の同級会は母校創立八十周年記念祝典に参加し、その後別所温泉で一泊、旧情を温めることになっていた。

しり一杯の盛況。映画「城跡の母校」を見、校歌を歌い、そして歴史の話や聞かす。厳肅なうちになごやかなよい雰囲気浸っている。と「あ、自分も伝統のあるこの良い学校で青春の一頁を過ごさせてもらった」と、その有難さ、ほこりさで胸がじんとした。

式終了後は席を同窓会館に移し祝盃を挙げてから、貸切バスで別

同級会幹事長志摩君の挨拶「とにかく母校の独立八十周年記念式典の行事に同級会として参加したことは良い事であり、我々の寄附金総額は二百十六万四千円で割当目標額に対し一六七%であり何よりも嬉しいことだ……」

## 三六回同窓会

◎相談役会と次期新役員改選  
十一月二十八日吉井相談役、20回他、六名の大先輩方と現支部長矢島(31回)氏、副支部長正副幹事長、編集委員長、会計幹事等十六名出席し、明春三月任期満了する役員改選について協議した。

今年四月十九日に万花荘にて我々同期会が開催された。会場に集まる前に門前の桜満開の母校の校門前にて記念撮影を行った。

中には山田光男君、黒崎峻君など大部分の会員が卒業以来四十四年振りには再会した級友もいた。東京からも丸山英人、藤沢嘉雄の両君が参加した。例により田中豊雄君の辞に次いで、昨年の同窓会には講師として招かれ、国際経済問題について講演した誰沢君の音頭で乾盃し宴会に入った。さしつ、き

約八十名の同期生が参加し、依田先生の外、数名の恩師、小沢先生、新津校長先生の御参列を得て盛大な除幕式を行った。そのあと同窓会館の一階の広間で、映画「城跡の母校」を観賞し、祝宴に入りました。盃を重ねるにつれ、あの苦しかった敗戦前後の中学、高校時代の思い出に花が咲き、時には目に涙するものもあり、何かタイムトンネルで青春時代に戻つた思いに出に楽しい時を過ぎました。

の学校へ来たような気がしないでもない感じである。会場に集まった同、三十名

所南条旅館へ直行了。出席者は飯島杏菜、石井補人、大塚貞通、小野恒男、笠原四郎、笠原義人、川上勇、小出万悟、小林忠人、志摩俊吾、島田規矩雄、清水直江、鈴木修、関口恒衛、田中幸雄、成田忠雄、西沢聡一郎、樋口達雄、平尾幸雄、保屋野正清、松井照好、柳沢時介、柳沢文秋、山崎篤録、和田敦、以上二十五名で、県外から六名、地元十九名懇親会は五時より、記念写真をとる。

## ≡48期生の近況≡

私達四十八期生は昭和十九年四月、上田中学校入学、二十三至三三上田中学四年修了、三十二年四月上田松尾高校二年に編入、二十五年三月同校を卒業、総勢三百六十名ある。